

ダニエル・カールの

聞きたい! 消防団

第10回

山口県萩市消防団

今回は、山口県の萩市をお訪ねしました。

昨年は、7月末の豪雨災害で甚大な被害を受けられたと聞いています。

そのときの被害状況、消防団の活躍、その後の防災対策などなどをお尋ねしたいと思います。

では、萩市消防団の山根勝美氏（総括団長兼中央方面団長）、須ヶ牟田（すがむた）健一氏（田万川（たまがわ）方面団長）、内田清司氏（田万川第2分団長）、萩市消防本部の中村州光（くにみつ）氏（警防課長）の皆さんからお話を伺いましょう。



左から、中村課長、山根総括団長、ダニエル・カール、須ヶ牟田方面団長、内田分団長
(萩市消防本部で撮影)

萩市について

ダニエル 本日はよろしくお願ひします。まず、萩市の概要について簡単に教えてください。

山根総括団長 萩は、平成17年3月に1市2町4村が合併し、誕生しました。山口県の北部に位置し、総面積は698.79平方キロメートルで、県土の11.4パーセントを占めています。

農業・漁業のほか、幕末には多くの志士を輩出していることから観光業も主産業であり、年間約230万人の観光客が訪れます。来年には、本市出身の吉田松陰の妹・文（ふみ）を中心に、明治維新で活躍した志士たちの青春群像を描いたNHK大河ドラマが放送される予定です。

ダニエル 来年は、いつもよりたくさんのお客がいらっしやいそうですね。

山根総括団長 萩市は、まちじゅうを屋根のない博物館に見立て、これらの歴史・文化遺産、自然を保存・活用したまちづくり、観光地づくりを、「萩まちじゅう博物館構想」と称して構想実現に向けて取り組んでいます。

消防団の概要等について

ダニエル 消防団の概要を教えてください。

山根総括団長 合併前の7市町村の消防団の統合を行い、新萩市消防団を発足しました。消防団の体制は、合併前の7市町村ごとに方面団を設け、54分団、団員1,174人（定員は1,401人）から成り立っています。団の運営は、総括団長及び6方面団長の指揮の下、それぞれの地域ごとに培われてきた特色ある団運営を生かしながら活動を行っています。また、萩地域には離島の消防団が3分団あり、有事の際には常備消防の力が即座に及ばないので、地域と一体となった消防団活動を行うなど消防力の拡充強化を図っています。

ダニエル 団員が1,000人以上とは、多いですね。そのうち、女性団員は何人ですか。

山根総括団長 90人です。

ダニエル 子供たちが入っている消防クラブなどはどのくらいあるのでしょうか。

中村課長 幼年消防クラブについては、幼稚園対象、実際は小学校3年生くらいまでが対象となっていますが、幼稚園単位で現在17団体あります。人数は800人程度です。小さいうちに火に対する正しい知識を覚えてもらい、消防に興味を持ってもらおうと取り組んでいます。

ダニエル 消防団員の平均年齢は？

中村課長 46.9歳です。やや高めですね。

ダニエル 最高年齢のかたは？

山根総括団長 76歳です。ちなみに私は72歳で、勤続52年になります。

須ヶ牟田団長 私は28歳のときに団員になって、今年で38年目になります。

ダニエル 皆さんが平均年齢を上げていらっしゃるんじゃないですか（笑）。平常時はどのような訓練をしているんですか。

山根総括団長 訓練については、方面団ごとに実施しています。地域住民や福祉施設などの参加による防災訓練、火災避難訓練や消防団員の技術の向上を図るための操法訓練や訓練礼式などを行っています。



操法訓練の様子

25年7月の豪雨災害のときの被災状況等

山根総括団長 昨年7月の豪雨災害のときの被害概要については、甚大な被害を受けた萩市東部の田万川地域の方面団長である須ヶ牟田団長からお話します。

須ヶ牟田団長 昨年の7月28日の日曜日、夜中の3時から4時の間にむつみ地域（田万川地域から南西部）で激しい雨が降り始め、だんだん雨が下流のほう（田万川地域）にやってきました。招集がかかって私が出動したのは昼前の11時25分頃でした。どンドン水が増えてきているので、全団員にも招集をかけました。



田万川江崎地区の被災状況（上空から撮影）

幸い、最も激しい豪雨災害があったのは日曜日の昼間だったので、田畑や建物は大変な被害を受けたものの、人的被害は少なかったです。夜に起きていたら、もっと大変な被害になっていたと思います。

夕方の16時から17時頃には、分団ごとに安否確認のため、巡回をしてもらいました。28日は避難者の救助、弁当の配布などを行い、日がたつにつれ、土のう袋の配布、川の水のせき止め作業など、8月11日まで消防団として出動してさまざまな活動をしました。大変暑い中での作業でした。ふだんの訓練では経験できない体験をしたと思います。

山根総括団長 7月28日の早朝から昼過ぎまで1時間の降水量が、県北部の萩市須佐（田万川地域の西部隣接）で138.5ミリメートル、同日のお昼12時20分までの3時間で301.5ミリメートルも降りました。

ダニエル すごい量ですね。

中村課長 7月の月間の平均降水量が280.6ミリメートルなんですけど、それを上回る雨がたったの3時間で降りました。

ダニエル 萩で今までに今回のような大雨が降る自然現象はあったのですか。

中村課長 昭和58年には、大きな豪雨災害があり、須佐地域が大きな被害を受けました。

須ヶ牟田団長 そのときは3日間で700ミリメートル以上も降ったんですよ。

山根総括団長 雨量としては、昨年のものがこれまでで最高です。気象庁がこれまでに経験のない大雨と言っていましたね。

須ヶ牟田団長 内田分団長は、自宅が水に漬かるなど大きな被害を受けています。

内田分団長 自宅は2メートル以上も水に漬かってしまいました。こちらの写真（下部）は、うちの近所にあった消防器庫です。私の分団が担当している器庫なんですけど、基礎の後ろ部分がえぐられていて、完全に機能をなくしています。車を出すために行ったらこんな状態で、もう通行不能でした。



田万川第2器庫の被災状況

ダニエル 7月28日のときの状況ですね。

内田分団長 そうです。うちの団員の3分の2は水害に遭った状況で、フリーで動ける団員が少ない状況でした。自分の周りを見て、安全にけがをしないようにとしか指示ができませんでした。一夜明けて、土砂崩れなどのために完全に孤立状態であったので、重機を持っているところに道路の土砂を除去をしてもらいました。それから水道・電気が遮断しました。携帯も不通になり、連絡がとれない状態でした。

ダニエル 無線は？

内田分団長 無線も器庫の中にあっただけで使えませんでした。

ダニエル (川のそばではなくて) もうちょっと小高い所に設置すればよかったですね。

内田分団長 消防といえば、水利である川のそばがいいと思って建てたのかもしれませんが。器庫は何度も移転しているのですが、初めてこういう状態になったのを見ました。

ダニエル この写真(下)は、学校ですか。



被災した学校での土砂作業中の様子

内田分団長 この学校は器庫の隣にありました。体育館、プールなど全て土砂にやられました。スコップなどを使って土砂の除去作業を行いました。全国から来たボランティアのかたにも手伝っていただきました。ありがたかったですね。

25年7月の豪雨災害を踏まえた災害対策など

山根総括団長 (7月の豪雨災害での) 消防団員の出動人員は、延べ567人です。

ダニエル 500人以上ですか。すごいですね。8月にも大雨が降ったんですよね。

内田分団長 8月25日でした。25日の大雨のときには、私の地区から2キロメートル離れた地区はまだ河川が決壊した状態だったので、また水没しました。土のう積みをやっている途中でまた大雨が来ましたから、大変でした。

ダニエル 大雨が続くと、心配でしょうがないですね。今はだいぶ落ち着きましたか？

内田分団長 応急措置はしてあります。

ダニエル 河川の護岸工事は？

中村課長 萩市では災害復興局を設け、県・市が協力して復興を目指しています。ちょうど、護岸工事に係る入札を終えて、これから着工する予定です。(※取材日は、平成26年5月9日)

ダニエル また梅雨が始まりますし、急がないといけませんね。昨年の豪雨災害を踏まえて、なにか特別な対策をしていますか。

須ヶ牟田団長 昨年被災した小川小学校での避難訓練は、以前は火災を想定していたものだけでしたが、今年から、水害の避難訓練もやるようになりました。昔は校庭に逃げていましたけど、水害の避難訓練では高い所に逃げるようになりました。

山根総括団長 自然災害による被害を軽減するためには、平素より災害に対する備えを充実強化すること、災害時には「自助」、「共助」、「公助」が的確に連携する社会を形成することが重要です。

この災害の経験と教訓を風化させることなく、後世に継承し、市民一人一人が自然災害についての防災意識を高めるために、「萩市民防災の日

を定める条例」を制定し、「萩市民防災の日」を7月28日としました。また、主に須佐・田万川地域に甚大な被害をもたらした「昭和58年山陰豪雨」が起きた7月23日から29日までの1週間を「萩市民防災週間」としました。

従来、各地域で実施していた防災訓練を、今年度は梅雨期の前の6月22日（日）、午前には被災3地域を対象に防災避難訓練を、午後には防災関係機関を対象として災害凶上訓練を実施する予定です。訓練を実施することで地域全体の災害対応力の向上を図っていく必要があると考えています。

ダニエル 消防団の対策は？

山根総括団長 さまざまな対策をしています。

訓練の面では、防災関係機関の参加による防災訓練、市・町内会・自主防災組織などとの避難訓練及び夏季訓練として消防制度の座学教養・訓練礼式・心肺蘇生法・応急救護・遠距離送水訓練・土のう工法などの実施や、消防学校への入校やヘリ離着陸支援訓練なども行っています。

資機材の整備面については、車両の更新、災害時における団員間の情報収集に活用するトランシーバーの増設、指揮本部との連絡体制強化に伴う携帯無線機の活用など、必要な資機材をいっそう充実していきます。



ケブラー手袋（消防基金が平成25年度末に萩市に当時の団員の現員分（1,181双）を交付）

災害に備えるため、災害時要援護者の情報収集・把握、資機材等装備品の点検、ポンプ性能試験、陸こうの点検、がけ崩れ・土石流など危険箇所の調査なども実施しています。また、消防団員の募集も行っています。

ダニエル 盛りだくさんですね。災害発生時には、消防団はどのような活動を予定していますか。

山根総括団長 災害発生時に想定している消防団の役割ですが、火災発生時における迅速な初動体制、常備消防との協力体制だけでなく、今回の豪雨災害においては被害が極めて甚大であったことから、住民の避難誘導・災害の情報収集・行方不明者の捜索・物資搬送・応急的な道路復旧などの災害対応の実施を想定しています。

中村課長 今回の豪雨災害のような突発的な災害では、人命救助がたいせつです。常備もすぐに駆けつけられないときがあるので、やはり地元の消防団の力をものすごく頼りにしています。

私どもでは、災害時要援護者のかたのリストを作って、個人情報に配慮しつつ、消防団に配っています。いざというときは、そのかたをいち早く助けてもらうようお願いしています。

ダニエル 近所のかたをよく知っている人の協力は大事ですね。

中村課長 さきほどの総括団長の話にありましたように、自分で逃げる「自助」、近隣の人に助けてもらう「共助」、私どものような公的機関が助ける「公助」が今後重要になってくると思います。

ダニエル 災害のスケールが最近は大きいです。萩市は広大な面積なので、常備だけでは難しいと思うので、地元の消防団の力が必要ですね。（突発的な災害では）混乱すること多い

でしょうが、訓練をすることで対応しやすくなると思います。お互いのきずなとコミュニケーションツール(無線機など)が重要になりますね。最後に萩市消防団のPRをお願いします。

山根総括団長 萩市消防団は、山口県消防操法大会において常に上位入賞を果たしており、その強さが県内にも知られています。県大会に向けては、約1か月前から訓練を実施し、市大会で優勝したチームがさらに訓練を続けて出場します。訓練は、団員からなる指導員(萩市独自の制度)と消防職員が指導にあたっています。

団員は、自分たちの住んでいる地域の安全安心は自分たちで守るという気持ちを、常に持って消防活動に望んでおり、消防団活動を通じて地域社会に貢献するという意気込みを持っています。

対談を終えて

災害があったときだけでなく、年中、地域に貢献するという気持ちを持ち続けることは、大変なことだと思います。

私も全国いろいろな地域の消防団からお話を聴きましたが、皆さん、その心を大事にすることがたいせつだとおっしゃっていました。

アメリカにもボランティアファイヤーマンという制度がありますが、日本の消防団のほうが地域社会とのつながりがはるかに強いと感じています。これからも歴史ある街・萩を守り続けてください。

萩市消防団員の皆さんのいっそうの御活躍をお祈りします。(ダニエル・カール)



萩市(萩地域)の全景